宗像

春季大祭

四月一・二日の両日、桜花爛漫のもと春季大祭が斎行され、多くの参拝者で賑わった。

三月二十九日には、早朝より地元総代並びに協力会の奉仕により、注連縄・紙垂の新調、幟立て、本殿をはじめ各所の紫幕張等の大祭準備が行われた。

同三十一日午後五時から総社地主祭が、同六時からは宵宮祭が斎行され、明日からの大祭が無事斎行されるよう祈念された。

四月一日午前十一時、小雨降るなか一日祭が斎行され、神島宮司が国家鎮護・皇室安泰・五穀豊穣を祈念する祝詞を奏上、続いて氏子会を代表して花田正三氏（宗像市）が奉幣詞を奏上した。

次いで、主基地方風俗舞保存会の奉仕で、昭和天皇御即位に由来する「主基地方風俗舞」が、続いて玄海中学校女子生徒による「浦安の舞」が優雅に奉奏

5月祭事暦

毎月1・15日 月次祭

午前10時
高宮祭
第二宮・第三宮祭
引き続き
宗像護国神社
月命日祭（1日）
巡　　拝（15日）

午前11時～
総社祭
浦安舞奉奏（1日）
豊栄舞奉奏（15日）

1日 沖・中両宮春季大祭

午前11時～
於＝大島・中津宮

5日 五月・浜宮祭

午前10時30分～
浜宮祭
於＝宗像市神湊 浜宮

午前11時～
五月祭
於＝宗像市江口 五月宮

27日 沖津宮現地大祭

午前7時 大島港 出港
於＝沖ノ島・沖津宮

宗滴

二酸化炭素増加による地球温暖化は、北極・南極或いは氷河の氷を溶かし、海面上昇の起因となっている。海抜の低い地域では海岸の浸食が進み、更には台風の大型化、竜巻発生の増加など世界中の環境が変化している。近年、我国でも異常気象が頻繁に起こり、日本が誇る四季も変化しつつある。自然環境がバランスを保てなくなっているのである。この温暖化を防ぐ一つの方法として、森林の護持がクローズアップされて久しい▼日本は他国と比較すると森林が多く、緑豊かな国である。しかし、いわゆる雑木が生息する場所は国土の数パーセントしか無く、もっと雑木を増やす必要がある。自然環境においてはこの雑木が重要で、杉や檜などで植林された山林に比べ、遥かに酸素濃度が高いそうだ▼雑木が繁茂する処として「鎮守の杜」がある。古へより日本人が大切に守り伝えて来た、全国津々浦々の神社が環境保護の原点といわれている由縁である▼某大臣に「日本の神社ほど森林を大事にしている宗教は無いじゃないですか、神職はなぜそれをアピールしないのですか」と言われた事がある。今まで以上に「鎮守の杜」の大切さを広めなければならない。神社の果す役割は大きなものがある。（M・A）

神具・装束　結婚式場調度品
井筒
福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番
本　店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)～4番
(075)343-3341番

木組の家　匠の技
総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406福岡県宗像市稲元1025　電話(0940)32-2567

▲献茶祭で御点前を披露する巫女

▲氏子奉幣使を奉仕された花田正三氏

▲主基地方風俗舞を奉仕された保存会員

▲浦安舞を奉仕された地元玄海中学生

された。

主基地方風俗舞保存会では、伝統文化を通じての青少年育成も大切な活動方針である。近年若い会員の入会もあり、本年は中学生二名を含む地元田島地区の青年四名が奉仕した。

翌日二日は晴天に恵まれ、午前十一時から二日祭が斎行され、海上安全・大漁満足が祈念された。

祭典後には本年三月十五日に、皇室へ献上申し上げた若布を採取された奉仕者に対し、宮司より感謝状と記念品が贈呈された。

二日祭終了後、第二宮、第三宮、宗像護国神社へと宮司以下各神職・参列者が参進、各祭場で春祭が斎行された。

宗像護国神社祭では、福岡県護国神社田村豊彦権宮司、宗像祖霊社越智珍友宮司をはじめ、宗像・福津両市の遺族等一〇〇余名が参列する中、護国の英霊をお慰め申上げると共に、恒久平和が祈念された。

また同刻、儀式殿では交通安全講社祭が斎行され、講員皆様の今年一年の交通安全も祈念された。

午後二時からは本殿で献茶祭が執り行われ、毎週熱心に茶道を学んでいる当大社巫女が、南坊流の袱紗捌きも優美に御点前を披露し、たてられた御茶は斎主により神前に献げられた。

かくして三日間に亘る春季大祭は滞り無く終了した。当大社の春季大祭は、その年の五穀豊穣を祈念する「祈年祭」要素のみならず、漁業をはじめ商工業など種々の産業の安全と繁栄をも祈念致しており、関係者多数の御参列をいただき新年度を迎えるに相応しい祭典となった。

各奉仕者、表彰者は左記の通り

◆氏子奉幣使
花田正三氏（宗像市）

◆主基地方風俗舞奉仕者
清水陽介（舞　方）
深田龍介（〃）
楠悠一郎（〃）
大森康平（〃）
石津典秀（歌　方）
吉田敏幸（〃）
岩佐洋一（〃）
中野正徳（〃）
吉武倫彦（〃）

◆浦安舞奉仕者
権田汐里（玄海中学二年生）
添田　葵（〃）
朝長郁美（〃）
松尾彩菜（〃）

◆若布献上表彰者
船越勇治（宗像漁協・本所）
藤島正浩（〃）
沖西一宏（〃　大島支所）
丸井　初（〃）
前田浩昌（〃地ノ島支所）
奥　佳寛（〃）
田畑政義（〃　福間支所）
広渡紀之（〃）
北野隆一（鐘崎漁協）
石橋守生（〃）
浜　栄次（津屋崎漁協）
赤間幸明（〃）

春季奉納吟詠大会

春麗らかな陽気となった四月七日、第二十九回となる春季恒例の神賑行事奉納吟詠大会が開催された。（主催＝鶴洲流、宗家＝河野鶴洲）

午前十一時、当大社本殿に近隣地区より同会会員約七十名が参集し正式参拝並び奉納合吟が行われお祓いの後、松口月城先生作「宗像宮」を宗家に続き会員一同で合吟され、まだ桜の残る境内に朗々とした声が響き渡ると、週末で賑いをみせた多くの参拝者もその美声に聴き入り暫し足を止める様子が見られた。

献吟後、一同は清明殿へと移動し式典が開会され宗家・河野鶴洲氏の挨拶に続き、当大社神島宮司より永年斯道の興隆に寄与された方々に感謝状と記念品が贈呈された。

その後、会員各々が順次日頃鍛えた自慢の喉で吟題に沿った吟詠が披露された。午後三時には当大社における日程の全てを終え、一同バスにて直会会場へと移動した。

この奉納吟詠大会も来年で三十回となる、更に盛大な記念大会となることを期待する。

表彰された方は次の通り（順不同、敬称略）

兼尾（かねお） 鶴純（かくじゅん）
清水（しみず） 翁洲（おうしゅう）

釈尊生誕祭

―宗像大社～鎮国寺までを稚児行列―

弘法大師（空海）が中国より帰朝後、先ず宗像大社に参拝し、大同元年（八〇六年）日本で最初に創建したと伝えられる真言宗の古刹鎮国寺（立部祐道住職）は当大社の神宮寺でもある。

また同寺は梅・桜などの花の名所としても知られ、昨年より四月に宗像観光協会の主催による「花まつり」が開催されているが、本年は四月八日（日）にお釈迦様の生誕を祝う「鎮国寺釈尊生誕祭稚児行列」として開催された。

当日は一一五名の稚児行列参加者が宗像大社に集合。本殿で正式参拝後、鎮国寺副住職立部瑞真氏、福岡県議会議員山田勝智氏、宗像市々長谷井博美氏が神馬に跨り鎮国寺まで御神幸を行った。御神幸では宗像大社氏子青年会々長小林栄二氏を始め会員も装束を着けて誘導にあたると共に大行列の中に父母や宗像ボーイスカウト団員も参列し、賑やかに稚児行列が行われた。

鎮国寺に到着後、立部副住職により祈願が行われ、お釈迦様の「誕生仏」に甘茶をかけて祝う儀式が行われて後、参加者全員に甘茶が振舞われた。

また鎮国寺境内には特設ステージが作られ、歌謡ショー等が行われると共に、地元の特産物販売が行われ、天候にも恵まれる中、桜舞い散る境内で春の訪れを満喫していた。

世界遺産へまた一つ前進　宗像ユリックスで「～沖ノ島を世界遺産に～講演会」

宗像・福津両市と市民が、共同で世界遺産登録活動を進めている「沖ノ島と関連遺産群」の文化遺産としての価値を広く知ってもらおうと、三月十八日「沖ノ島を世界遺産に」（主催＝宗像市、共催＝ＲＫＢ毎日放送、宗像ユリックス、沖ノ島物語実行委員会）をテーマとした講演会が、宗像ユリックスにおいて開催された。

講演会には市内外から約八〇〇人が参加、吉村作治先生、関百合子女史、中川武先生、そして当大社学芸員の重住真紀子の講師四名から、その魅力が熱く語られ、その実現には登録運動への市民の理解を更に高めていく必要性が重要であることをアピールされた。

各講師の講演を熱心に拝聴した参加者は、郷土宗像の歴史と伝統や文化、世界や日本を視野にしたグローバルな観点から果たすべき宗像の意義と役割、そして宗像大社がこの宗像という地域にとって如何なる存在であるかなど、改めて認識したようであった。講演終了後受け付けた世界遺産登録活動のサポーターにも多数の方が登録、着実な成果を上げた。

なお講演内容の要約は次の通りである。（講演の順番通り）

講演に聴き入る吉村作治学長（左）、谷井市長（右）

「世界遺産から見た宗像大社」

サイバー大学 吉村作治学長

私が宗像と沖ノ島に出会ったのは、ちょうど四年前。それ以来「みあれ祭」など宗像大社の神事に参加し、沖ノ島の文化的価値が高いこと、また世界に誇れる貴重な歴史的財産であることを知り、この世界遺産登録活動にも関わりをもってきました。

今回、沖ノ島が世界遺産登録の国内暫定リスト掲載を逃したとはいえ、四年前にはじめた活動としては、立派なものです。私はエジプトとの関わりをもって四十年になります。四十年かかって世界に認知されました。

周りの環境や自然に影響される文明や文化ですが、「お言わず様」として地元の人が守り続けてきた沖ノ島は、まさに「海の正倉院」と称されるにふさわしい価値があり、日本の誇りでもあります。

また、「沖ノ島を世界遺産に」という活動が、行政だけでなく、市民運動で行われていることが重要です。国内でも市民運動の盛り上がりを見せているところはほとんどありません。

皆さんのもう一押しで、次は暫定リスト掲載への道が開かれます。いっしょにがんばりましょう。

「世界遺産の現状と課題」

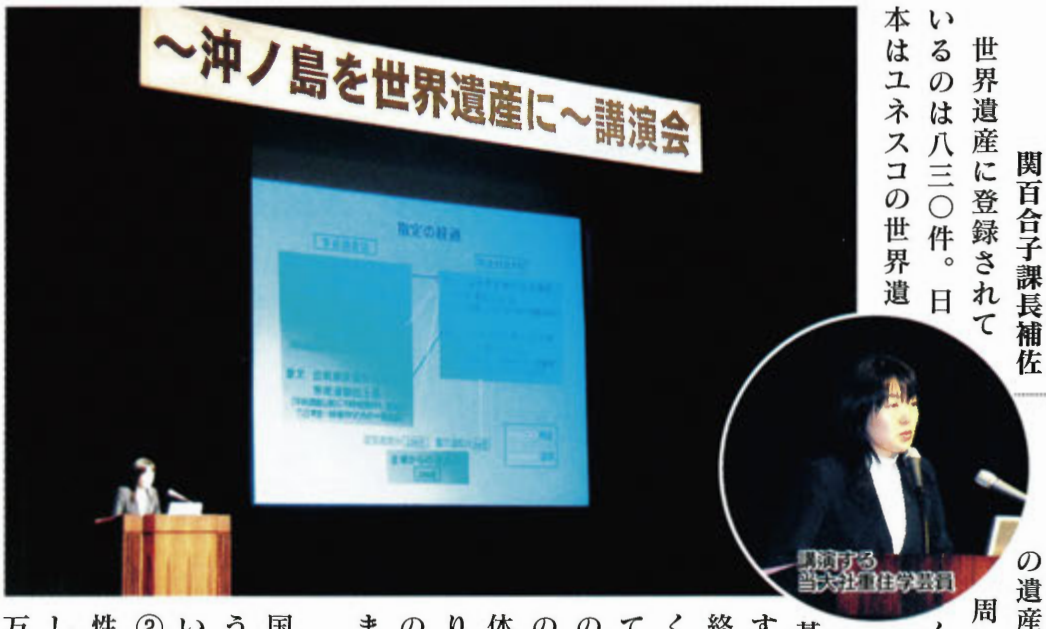
文化庁文化財部記念物課
関百合子課長補佐

世界遺産に登録されているのは八三〇件。日本はユネスコの世界遺産条約の成立から二十年遅れて参加、現在十三件が登録されています。

宗像市からも申請された国内暫定リスト審査には全国から24件の応募がありました。

世界遺産登録は、人類共通の遺産をみんなに周知して、みんなで守っていこうということが基本姿勢です。登録が最終目的でなく、どう守っていくべきものなのか、その保存管理体制をしっかりさせるものでもあります。

今回は、①国内に同じようなものがない文化遺産か②資産の真実性がはっきりしているか③万全の保存体制がとられているかなどを基準に審査しました。



「沖ノ島祭祀遺跡出土品の整理作業について」

宗像大社文化財管理事務局
重住真貴子学芸員

国宝一括指定へ向けた沖ノ島祭祀遺跡出土品の整理作業に、平成十三年から五年間携わってきました。

国宝指定手続きのための作業は、ひとつひとつが地道な手作業。貴重な出土品に番号をつけていき、必要なものについては、寸法の計測、発掘調査報告書とのつき合わせをして、学術的意義を確認しながら整理していきました。

この作業では、古墳時代から平安時代中期の祭祀遺跡出土品の総数が約8万点であることや、同出土品のすべてが国宝指定となり得る価値があることが確認でき、同出土品の内訳と個々の数も明らかになり、大きな成果がありました。作業を終えて国宝一括指定を受けたことで、今後はさらに気を引き締めて保全に務めていかなければと思いを新たにしています。

また、作業の折々では、優品を惜し気もなく捧げて祭祀を行った古代人の篤い心を想起させられ、その奉献品が現代に蘇っている奇跡に驚嘆しました。沖ノ島や宗像の神様を崇敬した人々の敬虔な心を実感でき、大変有意義に思っています。

「海の聖域空間としての宗像大社の三宮構成の特質」

早稲田大学理工学術院
中川 武教授

宗像の登録活動の応援団として参加しました。

先程「日本のなかでもあまりないユニークな沖ノ島」と、文化庁の関さんが話されたように、沖ノ島など宗像大社の三宮構成は非常に興味深いものです。

なぜ、沖ノ島(沖津宮)と大島(中津宮)、九州本土の田島(辺津宮＝一般的に認知されている宗像大社)の三宮が置かれたのかを、これから学術的に明らかにしていきたい。

海神の登場など、海にまつわる信仰や世界宗教との関係、地域の独自性と共通性など、海に対する尊敬や畏怖(いふ)、農業の恵みをあわせて見ていきたいと考えています。

新人紹介

4月1日付で、神職1名、巫女5名の計6名の職員が新たに加わりましたので、下記の通り、ご紹介致します。

①名前 ②生年月日 ③出身 ④経歴（学歴） ⑤特技（趣味） ⑥抱負

神職

①壹岐（いき） 貫寿（たかとし）
②昭和52年6月25日
③宮崎県児湯郡
④國學院大学文学部神道学科
⑤ゴルフ・映画鑑賞
⑥宇佐神宮にて、7年間奉職させて頂いた経験を宗像大社で生かせればと思っています。
宗像大神様と宇佐神宮二之御殿の大神様が同じ神様という事、また学生時代に助勤にて奉職させて頂いた神社という事で強い縁というものを感じております。

巫女

①篠原（しのはら） 愛里（あいり）
②昭和63年8月22日
③宗像市光岡
④私立折尾愛真高等学校
商業科コース
⑤球技全般。特にバスケットボール、バレーボール簿記3級、ワープロ3級、情報処理3級、電卓2級。
⑥立派な巫女になれるように一生懸命頑張りたいと思います。

巫女

①小林（こばやし） 瞳（ひとみ）
②昭和63年10月31日
③宗像市牟田尻
④岡山県立倉敷中央高等学校
家政科
⑤クラリネット（中学・高校と吹奏楽部でした）
⑥こまやかな気配りができ、素早く的確な仕事の出来る巫女になりたいと思います。

巫女

①永島（ながしま） のどか
②昭和63年11月17日
③宗像市神湊
④福岡県立水産高等学校
海洋科Ⅰ組
マリン技術コース
⑤バスケットボール、ダイビング（スクーバダイバー、アドバンスダイバーの免許取得）
⑥父は神湊で『弥生丸』という船で父と兄、叔父と漁師をしています。早く仕事になれて、一人前の巫女になれるように頑張りたいと思います。

巫女

①大坪（おおつぼ） 美鈴（みすず）
②昭和63年12月17日
③福岡県宗像市自由ヶ丘
④私立折尾愛真高等学校
福祉コース
⑤特技…ベットメイキング（介護福祉士 ヘルパー2級 難病ヘルパー）
趣味…読書
⑥目配り、気配り、心配りが出来るような巫女さんになりたいです。

巫女

①麻生（あそう） みなみ
②昭和63年12月20日
③遠賀郡芦屋町
④遠賀高等学校
普通科情報ビジネスコース
⑤料理・読書
情報処理検定第2級、ワープロ実務検定第2級
⑥宗像大社の巫女としての自覚と誇りを持って頑張っていきたいです。

(続) 海の寄物

214

いしい ただし

「南海紀聞」の中で、著者の青木定遠が「按に宝暦七年六月(正しくは延宝八年庚申五月)に日向に漂着せし巴旦の船も籐を以て縛着せりとぞ」と書いているところがある。この「日向漂着船は「日本漂流誌」(相川広秋)に次のように記されている。日向飫肥へ漂着したのは巴旦船(フィリピン北部の島嶼)で、籐蔓をまき、船は長さ四丈(約十二m)、幅一丈ほどの小型で、十八名がのり、皆、裸だった。言葉は通じないが、身振りで漂着してきたものと分かった。この船は琉球へ漂着した時に、二名が病死している。飫肥から長崎へ送られ、便船を待っていたが、ここで十二名が病死し、六名が生き残り、十月にオランダ船で送り返えされた。彼らは好んで犬を食べ、風俗習慣すべて異様だったので、日本人を驚かしたが、病死するのも、このためと考えられた」

フィリピン・ミンダナオ島 [籐]

◀フィリピン・マクタン島 マゼランを倒しラプラプの像

話を続けよう。すでに渚を漕ぎはなれ、順風に乗って五昼夜で、幅五、六町(一町約一〇九m強)ばかりの川口に入った。川口から五、六里のところ、カラカン(ミンダナオの南海)に着き、船をつないだ。ここが頭目のいるところであった。

そこには約二、三百余戸の家があり。家は川筋に建てられている。家の高さは三丈ばかりで、梯子で登り降りをする。屋上はあたふの苫で葺き、壁は片籐を編んで張り、塗壁はない。また大きな筏を浮かべ、杭を立てて繋ぎ停め、その上に家をつくって居住するものもある。

カリマンタン(ボルネオ)の土着人船

黒坊一人が陸にあがっていったが、しばらくして数人が出てきて、二十人は、役所に連れていかれた。その構(つくり)は四周を板で囲み、中央に大きな扉が開かれている。そこが門であった。門の左右のところどころに窓をきり、石火矢(大砲)の筒口が出ている。家屋は宏大だが、みな苫葺きであった。孫太郎らは案内に任せ、梯子を昇った。頭目と見える男は椅子に座し三人いた。その体には花布(更紗、人物、鳥獣、花卉など種々の多彩な模を手描き、あるいは木板や銅版を用いて捺染した綿布、ジャワ更紗)をまきつかせ、頭も花布で包んで、刀を帯ていた。その左側の老人が金兵衛の髪に帙子(笄?)をさし居たるを見て「ひっぽん」(日本なり)と云った。此時、初めて日本人であることが相手に分ったようである。ここの言葉は全然通じなかった。右の老人は我々をつれてきた者に、何ごとかこまかく言つけていた。導かれて役所を出て、十町ばかりのところに空家があり、そこに二十人は入れられて、黒坊三人が見張った。頭目より蜀稷(モロコシキビ)一苞が贈られた。

その翌日、早くから黒坊たちが手に手に材木を持運んで、三間に七間ほどの小屋を作って、ここに移された。小屋はすべて籐で縛着し、上にあたふの苫で覆い椰子を削った柵で囲った。土鍋一口を与えられ食物は芭蕉子、蕃藷あるいは蕨粉(でんぷん・わらび粉)の如きであった。

フィリピン・ミンダナオ島 水上生活(サンボマン州)

第五四九回 宗像大社歌会詠草

大野展男選　毎月25日〆切

北九州市　八幡　吉田　ウト子

笹原にすくと伸び立つさ蕨の渦の綿毛は金にけぶらふ

評　蕨のイメージを生かすには、初句を草原としたい。宮柊二に〈むらさきに蕨の茎も老い長けて逝かんとするか庭すみの春〉がある。

うきは市　浮羽町　向　則正

一月の北京の空は晴れわたり街ゆく我もコートぬぎたり

評　北京の風物を堪能したであろう、作者の姿が見える。

北九州市　戸畑　田中　ハツセ

ガラスごし風の唸りの聞えくるビル十階の薄茶の席に

評　吹く風は春一番か、動中静ありのひととき。

福津市　若木台　野間　精一

わが妻の庭の行き来を妨げる日向水木は低く剪られぬ

評　日向水木を切ったのは妻か、それを惜しむ作者。日常の一齣の景。

宗像市　日の里　大和　美由紀

早春の畑に萌ゆる浅葱を刻みて入れる今朝の味噌汁

評　自分で作ったものを自分で食べる。よろこびのひとときである。

宗像市　田久　巻　桔梗

第二宮第三宮と高宮はこちらと大き矢羽根が示す

評　大社を素材として詠う意欲は買うが、この一首、大き矢羽根だけでは何を詠いたいか判らない。簡素化の大切だが、過ぎないように。

福津市　中央　池浦　千鶴子

やぶ椿を捨ひて枯木の枝にさし公園掃除の娼は笑まふ

評　初句二句の破調はうたの内容を損ねるので、「やぶ椿を」のを、取るか、「落ちてゐし椿の花を」と定型にする努力を。

宗像市　田野　森　甲子

赤白を交互に植ゑし葉牡丹の穂先は一斉に春の陽を追ふ

評　「一斉に」では揃い過ぎて人工的になるし、穂先もおかしいので「花穂それぞれに」としたい。

宗像市　東旭が丘　天野　玲子

大学を卒業ま近の孫の声電話に聞けば青年の声

評　あたり前と言えば当たり前だが、そこに驚きとおかしみがある。

福津市　星ヶ丘　佐々木　和彦

ひたすらに手光今川に沿いながら春の日ざしを眩しみ歩く

評　「ひたすらに」と言はしめた背後は何だろうか。

宗像市　大井　木原　ふさ子

わが里の緑濃き丘削られて氷雨降る日も土を運べり

評　乱開発に失われてゆく様を嘆く声が聞えてくる。

宗像市　大島　杉田　禮子

勝島の根に白波の打ち上ぐる彼岸時化らし毎年のごと

評　島をめぐる季節を熟知する作者ならではの一首。

福岡市　南区　井田　有久衣

われの弾くピアノに合せ認知症の老女は歌うか細き声で

評　かくして二人におとずれるハッピーなひと時である

宗像市　池田　森　龍子

芍薬の芽が持ち上ぐる藁稭に春の小雨は音なく浸みる

評　「音なく」が常套的な表現。「朝より春の小雨は浸みる」。

福津市　光陽台　香月　照子

この春の花見は一人図書館の窓よりながむ淡き紅色

評　宿病を持つ作者か、「一人図書館の」がかなしみを呼ぶ。

選者詠

歌碑の辺の日当る石を離れざりあかね一つが生き残りゐて

時にして吹雪ける景も由々しくて北日本海沿ひ汽車に過ぎゆく

昼間見し雪山照らすこともなく上弦五日の月沈みたり

第五二四回 俳句作品集

宗像市　光岡　白土　凌一

春の空吾胸痛む友去りて

宗像市　日の里　花田いつ枝

剪定の音を違へて親子たり

編集後記

年度始めの先月号に、購読料納入の振込み用紙を同封させていただきましたところ、現在続々と入金を賜っております。編集者として厚く御礼申し上げます▼さて、先月は沖ノ島勤務でした。周知の通り平素はたった一人で過ごすのですが、今回は島で様々な工事が始まり、プレハブ小屋がいくつも建ち、多い時で二十人、少ない時でも七、八人と常に誰かいるといったいつもと違う勤務でした。始動したばかりのトラブルで、何日も風呂に入れないといった厳しい状況もありましたが、島にいる者同士三食同じ釜の飯を食べ、それぞれ職務は違いますが、妙な連帯感が生まれ明るい気持ちで過ごせました▼しかし、しかし帰社後の宗像大社の面々と対面した時の安堵感、ゆっくりと入る風呂はまた格別でした▼紙面の通り、市民・行政の力強い後押しを受けシンポジウムも開催され、この沖ノ島の認知度が上がってきております。今月末には年に一度の「沖津宮現地大祭」も斎行されます。神徳宣揚という神職の立場として、まだまだ出来ることがありそうです。（M・O）

発行所　宗像大社社務所　宗像会

〒811-3505　福岡県宗像市田島
電話　0940-62-1311(代)
発行人　葦津幹之
編集人　大塚宗延
制作　ゼネラルアサヒ
印刷　ゼネラルアサヒ

定価1年送料共 1,000円